

◇武藤 健君

○議長（後松一成君） 定例会最後のとめの一般質問でございますが、32番、武藤 健君の一般質問を許可いたします。武藤 健君。

（32番 武藤 健君 登壇）

○32番（武藤 健君） 一般質問をいたします。

一つ目は、ことしも震度5以上の地震が国内で5回も起こるなど、災害から目の離せない状態です。町長は防災計画を作成すると言っておられましたので、その中にぜひ災害時にアマチュア無線家への協力要請を入れていただきたいと考えます。

災害時は電話も携帯電話も極端につながりづらくなります。こんなとき、アマチュア無線家の144.5メガサイクル、433メガサイクルのFM周波数帯を使えば、双方向の連絡が可能ですし、地上高三、四メートルぐらいあれば、美郷町のほぼすべてをカバーできます。ほとんどのハムの方は、ハムと言っても食べられないんですがね。車載リグとか、携帯リグ、自宅にも基地局をつけて広く連絡が可能です。

また、町内にあるタクシー会社の方にも4社ほどあるかと思いますが、協力をお願いをしておけば、災害時の通信ライフラインが確保できると思いますが、町長の見解を伺います。

○議長（後松一成君） 32番に対する答弁を求めます。松田町長。

（町長 松田 知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 武藤議員のご質問にお答えいたします。

災害時のアマチュア無線家への協力要請についてですが、災害時の情報伝達及び情報収集は災害現場への早期対応に欠くことのできないものと認識しております。議員ご指摘のアマチュア無線については、美郷町内でも資格を持っている方が相当数いらっしゃいますし、合併前、旧町村の地域防災計画にもその協力体制の構築がうたわれております。したがって、現在策定中の美郷町地域防災計画の中にアマチュア無線及びタクシー無線との協力体制の構築を明記していくとともに、地域防災計画を策定した後には、迅速に協力要請をしまいたいと存じます。

以上です。

○議長（後松一成君） 武藤 健君。

○32番（武藤 健君） あったんですか。一応私もアマチュア無線をやっていますので協力します。

二つ目は、体の不自由な方が使える公共施設にしていきたいということです。といいますのは、先日千畑庁舎に案内した方が庁舎の西側の方から入ってきたんですね、で、あそこの方は手すりというか、コンクリートの手すりがあるわけです。で、「正面玄関の方は手すりがないので、怖くて入れない」と言っていました。健全者はやっぱり障害者の目線には立てないんだなと思いました。仙南、六郷、千畑の庁舎を見ると、仙南、千畑には車いすのためのスロープがありますが、六郷はないので、リフトがつ

けてあります。車いすの方の専用駐車場は仙南にはありますが、六郷も千畑の駐車場もないみたいです。美郷町すべての施設を見直していただいて、障害者の方でも不自由なく使えるような公共施設にしていきたいと考えます。19年には国体もあることですから、全国からいろいろな方が集まるわけです。財政の問題もあるかと思いますが、できるだけ速やかに障害者の方が使えるようなトイレ等も含めまして、施設を整備していただきたいと考えますが、町長の見解を伺います。

○議長（後松一成君） 答弁、松田町長。

○町長（松田知己君） お答えいたします。

公共施設のバリアフリー化についてですが、障害のある方のみならず、高齢の方など、だれもが自由に行動でき、安全で快適に生活できる社会はすべての町民の願いでもあります。特に、公共施設はバリアフリー化が特に求められており、最近建てられた建物は車いす専用駐車場、出入口のスロープ、自動ドア、障害者用トイレ、手すりの設置など、そのバリアフリー化を念頭に建設されております。しかし、比較的古い建物については、まだ障害者等に配慮した基本的な設備に欠けているものもあり、今後年次計画でバリアフリー化を進めていきたいと考えておりますし、また、美郷町総合計画の中にもその旨をうたっているところであります。

なお、美郷町の基本計画では、車いす専用駐車場の設置は現状の66%から5年後の80%、10年後には100%に、そして出入口については、現状の53%から5年後65%、10年後80%の整備率となるよう目標を立てて頑張っていく所存でありますので、ご理解いただきたいと存じます。

以上です。

○議長（後松一成君） 武藤 健君。

○32番（武藤 健君） こういうお話しをしますと、必ず町には財政上の問題があるという返事がよく返ってきますが、それはそうですよね、そんなに腐るほど金があったら合併なんかしないわけですから。昔六郷町の町長が「玄関にリフトをつけてください」と言ったら、お金がないからと言って、呼び鈴をつけたんですよ。で、呼び鈴をつけて若い職員の力のある職員が持ち上げるんですね。これヒューマンリフトと言うんだそうです。こういう考え方もあるかと思しますので、ボランティアとか、皆さんを生かしても、いろいろな使い方があるのではないかなと、ボランティアの皆さんの善意ですね。例えば、現在声の広報とか、声の議会報なんか出版というか、発行できるような状況にあるそうです、願いますれば。そのような皆さんの善意を生かす町長が言う共助を生かしたらいかがでしょうか、町長。

○議長（後松一成君） はい、答弁。

○町長（松田知己君） お答えいたします。

今議員からご提案のように、ボランティアの活用ということは、これからの美郷町のまちづくりには非常に大きな意義があると認識しております。そのため、美郷町総合計画の基本計画の中にもボランテ

ィアを推進していく旨記述をしておりますが、ボランティアの内容について、今ご提案のあった内容も今後検討してまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（後松一成君） 武藤 健君。

○32番（武藤 健君） よろしくお願ひします。

次に、三つ目に入ります。三つ目の問題は、ちょっといろいろてんこ盛りにした関係上、とりとめのない文章になってしまいましたので、聞きづらいかも知れませんが、内容はわかるかと思ひます。

その前に、田中さん、これちょっと町長に渡して。

今お渡ししたのは、仙北郡六郷町町政要覧、昭和10年ですから、4分の3世紀前ぐらい前、70年ぐらい前のものです。当時、1年間に生まれた子供は349人、死亡195人、死産10、婚姻132、離婚14、そんなことがいろいろ書いてあります。参考になるかと思ひますので、町長に特別差し上げます。それは、紙は町の役場のやつですから、町のコピーですから。

昨年の合併記念式典で千畑中学校の3年の女の子が、多分ことしは高校生になっていると思ひますが、町の将来について、「合併した町が発展するためには皆さんの働く場所をつくって、町に税金を納めてもらえばいい」と話してました。中学生にもなると話すことが違うなと思つたものです。人口の減少は働く場所が少なくなったことも一つですが、田舎の三大企業と言われた役場も農協も郵便局も雇用の面では怪しくなっています。会社は中国やインドなどにシフトしている時代です。

はてさて、話題は少しそれますが、かつて江戸の昔、美郷町六郷に滞在した民俗学者の菅江真澄は、「月の出羽路」の中で、繁栄を極めた六郷を「六郷は養栄丸に百清水、多い寺々、絶えぬ金持ち」と詠んだことがあります。この地も往時を今しのぶものはお寺だけだとしたら、笑えない感じですよ。

商店街も寂しい限りです。つい最近も江戸年間から続いた大店が店をやめました。このことはもちろん、特に美郷町に限ったことではなく全国的な傾向であります。物流の変化、時代の大きな流れには勝てないのでしょう。

また、昔は農村地域には嫁の来手がないと各地の自治体でさまざまな取り組みもしましたが、さしたる効果もなく、上がらず、名残の結婚相談という名目の予算が毎年計上されるのみになりました。結婚に対する考え方の形態の変わりもあり、プライベートな問題ですので、なかなか難しい問題でもあります。結果、年老いた母親が「おら家の兄さ嫁っこねべか」と嘆く姿は悲痛です。人口の定着の問題もさまざま複雑に絡み合っていますから、一朝一夕に解決しない、息の長い問題です。

町長の美郷町総合計画を確実に根づいて前進させるためにもプロジェクトチームのようなものが必要だと考えますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（後松一成君） 答弁を求めます。松田町長。

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

プロジェクトチームについてですが、議員がご指摘の人口減少等についての課題は今議員がお話ししたとおり複雑にさまざまな課題が絡み合っているものと思います。そういったさまざまな課題については、地域の課題は地域で解決するというのが現在の地方分権社会の本旨であると認識しておりますので、今後とも役場、あるいは町民が一つ一つの縦割りの考え方ではなくて、部局横断的な検討、協議をし、そうした課題について一体となって取り組んでいくことが必要かと存じます。町としましても、役場職員がそうした縦割りの部分ではなく、横断的に協議ができるように留意するとともに、町民各位からもお知恵拝借できるような体制整備に留意し、人口減少を初めとしたさまざまに絡み合った複雑な問題に対する課題解決に向かってまいりたいと存じます。

特に、地域の課題は地域で解決するという観点からしますと、全国共通の課題であればあるほど地域のアイデンティティやオリジナリティが求められるものと認識しております。地域実態をつぶさに把握することに努め、私初め職員が、そして町民各位とともに一緒に考え、みずから勉強することを深めていくことで、まずはそこから始めたいというふうに考えております。

したがって、現段階では外部からのその課題に対する専門家を入れたプロジェクトチームの設置ということは考えておりませんが、まず、懐より始めよ的に町内で大きな課題解決に向けた取り組みを第一歩第一歩重ねながら取り組むと同時に、今後その課題の状況変化が大きくあった場合は、議員のご指摘の外部からの専門家を入れたプロジェクトチームといったものも検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（後松一成君） 武藤 健君。

○32番（武藤 健君） 町長もお気づきだとは思いますが、最近は夏休みでもラジオ体操をする元気な子供の声が聞こえなくなりました。それだけ子供が少なくなったんですね。町長が目指す基本構想が着実に実現し、文字通り住んでよかった町なるためには、かなりの時間がかかろうとかとは思いますが、夏休みに子供が元気に遊ぶ、元気な声が聞こえる町を実現していただきたいと考えるものです。

町長、ぶしつけな質問で恐縮ですが、総合計画に対しては自信おありですか。

○議長（後松一成君） はい、答弁。

○町長（松田知己君） お答えいたします。

今策定し、今定例会でご議決いただいた基本構想をもとに策定を作業を進めてきた基本計画でありますので、もちろんその実現に向けての努力並びに考え方はしっかりと持っているつもりでおります。

○議長（後松一成君） 武藤 健君。

○32番（武藤 健君） 了解いたしました。

最後に美郷町と美郷町の皆さんのいやさかを祈念して私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（後松一成君）これで、32番、武藤 健君の一般質問を終結いたします。